

# 比喩文の親しみやすさと解釈の多義性の関係

## 一 解釈の共起情報を用いた直喩文の意味空間記述一

平 知宏<sup>1,2</sup> (sakusha@syd.odn.ne.jp) 中本 敬子<sup>3</sup> (knakamoto@nifty.com)

楠見 孝<sup>1</sup> (kusumi@educ.kyoto-u.ac.jp)

<sup>1</sup>京都大学大学院教育学研究科 <sup>2</sup>日本学術振興会 <sup>3</sup>文教大学教育学部

### 目的・仮説

- \* 比喩文の解釈記述データを用いて、親しみのある比喩とそうでない比喩との違いを探る。
  - ✓ 従来の研究では、直喩か隠喩かの嗜好性の違いという観点から、主題と喩辞の類似性認知の差異に言及されてきた。
  - ✓ 本研究では、解釈データを直に用いることにより、比喩理解の構造を探ることを目的とする。
- \* 親しみのある比喩は解釈が多義的であるが、親しみのない比喩の解釈は多義的とはいえない。
  - ✓ Chiappe & Kennedy (2001)：比喩文の親しみやすさは、主題と喩辞の類似性認知と深く関わり合う。
  - ✓ Utsumi & Kuwabara (2005)：一つの比喩文から多様な解釈が産出されるほど、隠喩形式が選好されやすい。

### 調査1：解釈の自由産出法から

- \* 参加者  
文系大学生175名 (平均19.6歳)
- \* 調査の概要  
直喩文の親しみやすさ評定 (range:1-7), 及び直喩文の直喩文解釈の自由記述 (時間制限なし)。
- \* 分析  
親しみのある直喩5文+親しみのない直喩5文を選び出し、それらの解釈の分類を実施。親しみのある比喩+親しみのない比喩のそれぞれについて、得られた解釈のタイプの共頻度行列に基づいた対応分析を実施。

### 調査2：解釈の適切選択法から

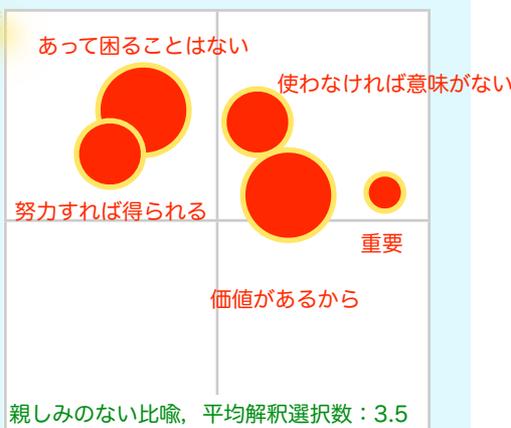
- \* 参加者  
文系大学生46名 (平均20.4歳)
- \* 調査の概要  
調査1で使用した直喩文10文について、解釈タイプの頻度上位10個を参加者に呈示し、適切な解釈を選ばせた (選択数制限あり:3-5)。
- \* 分析  
親しみのある直喩と親しみのない直喩との適切解釈選択数の平均を比較 (t検定)。また、解釈10個の共選択頻度に基づいた多次元尺度法を実施。



**親しみのある比喩**  
ex. 言葉は武器のようだ  
自由産出法では、どの参加者も似たような組み合わせで、多様な解釈を行っている。また適切選択法では、一つの有力な解釈を中心として、他の解釈を同時に多く選んでいる。



**親しみのない比喩**  
ex. 学力は貨幣のようだ  
自由産出法では、参加者によって解釈の仕方が異なる上、解釈の数が少なめである。また適切選択法では、参加者によって適切とする解釈がバラバラで、選択する数も少ない。



t(45)=9.68, p<.001 : 選択数は親しみのある比喩の方が多

### 結果・考察

- \* 親しみのある比喩とそうでない比喩との違いは、参加者間での解釈の一貫性のあるなしである。
  - ✓ 親しみのある比喩は、一つの表現に対し、参加者内で多くの解釈がなされ、かつその解釈パターンは、参加者間で類似している (=多義的)。
  - ✓ 親しみのない比喩は、一つの表現に対し、参加者内でそれほど多い解釈がなされるわけではなく、またその解釈のパターンも参加者によって異なっている。

## 調査1：材料文の親しみやすさ評定値

直喩文	親しみやすさ評定値	直喩文	親しみやすさ評定値
人生は旅のようだ	5.67	結婚は墓場のようだ	4.24
人生はギャンブルのようだ	5.58	酒は潤滑油のようだ	4.17
言葉は武器のようだ	5.46	学力は階段のようだ	4.04
悲しみは海の底のようだ	5.38	怒りは台風のようだ	4.01
時間はお金のようだ	5.37	笑顔は仮面のようだ	3.96
希望は光のようだ	5.23	犯罪は伝染病のようだ	3.95
恋は病気のようだ	5.03	犯罪は細菌のようだ	3.68
恋は魔法のようだ	4.98	悲しみは雪のようだ	3.68
時間は資源のようだ	4.90	希望は子供のようだ	3.57
議論は戦争のようだ	4.81	知識は食べ物のようだ	3.33
笑顔は花のようだ	4.70	酒は恋人のようだ	3.06
責任は鎖のようだ	4.50	議論は建築物のようだ	3.00
怒りは爆発のようだ	4.42	知識はアクセサリのようだ	2.97
責任は荷物のようだ	4.38	結婚は冷蔵庫のようだ	2.58
言葉は宝物のようだ	4.32	学力は貨幣のようだ	2.08

\* 赤字の直喩文は、調査1及び調査2で実際に解釈の自由産出法・適切解釈選択法の分析で使用したもの。

## 調査1：分類結果

直喩文	解釈タイプ数	分類一致率	一人あたりの解釈数
親しみのある比喩			
人生はギャンブルのようだ	13	93.2%	2.0
言葉は武器のようだ	10	87.4%	1.5
悲しみは海の底のようだ	11	92.5%	1.9
時間はお金のようだ	10	90.1%	1.7
恋は病気のようだ	17	89.7%	1.7
親しみのない比喩			
酒は恋人のようだ	22	94.4%	2.0
議論は建築物のようだ	10	88.2%	1.4
知識はアクセサリのようだ	11	93.2%	1.8
結婚は冷蔵庫のようだ	12	80.7%	1.2
学力は貨幣のようだ	11	93.3%	1.2

分類した解釈の詳細な内容について、<http://homepage.mac.com/hirachi/psycho/> 参照のこと。

## 調査2：解釈タイプと選択頻度の例

言葉は武器のようだ	選択頻度 (n=46)	学力は貨幣のようだ	選択頻度 (n=46)
人を傷つけるから	0.89	あって困ることはないから	0.74
人を傷つけたり守ったりするから	0.85	価値があるから	0.67
心に刺さるから	0.65	使わなければ意味がないから	0.52
慎重に扱う必要があるから	0.57	努力すれば得られるから	0.48
人を殺すから	0.30	重要だから	0.37
脅せるから	0.20	使えるから	0.26
人を従わせるから	0.20	高収入に結びつくから	0.17
自分を守るから	0.17	かわりに得られるものがあるから	0.17
様々な種類があるから	0.13	なくても生きていけるから	0.00
どちらも機関銃のように早いから	0.00	いつか使ってなくなるから	0.00